

道の駅を活かした農業の活性化 ～山梨県の道の駅を対象として～

山梨大学大学院医学工学総合教育部 学生会員 ○亀岡 宏竹
山梨大学大学院医学工学総合研究部 正会員 大山 勲

1 はじめに

1 - 1 背景

現在、食に関する意識の変化により、良質なものと、地場産のものを求める動きが進んでいる。一方で作物の自給率は低下、スプロールによる農地の宅地化など農業環境を取りまく環境は厳しい。こうした中で、どのようにすれば農業を活性化していけるかを考える必要がある。そこで、地産地消を進める事が可能な販売店舗があると、地域の農業を活性化することができると考え、道の駅における農産物直売場に注目した。近年、道の駅における農作物の販売等により農業の活性化につながる事例がみられる。しかしながら、このような研究はみあたらず実体は明らかになっていない。

1 - 2 目的

そこで本研究では、

道の駅における農作物の販売

道の駅周辺の農業の活性化の実態

を明らかにすることを目的とする。

1 - 3 方法

活動の実態把握を行うために、山梨県内の道の駅を対象にヒアリング調査を行なう。

1 - 4 対象

山梨県すべての道の駅 16 箇所を対象とする。

(図1)

2 道の駅

2 - 1 道の駅とは



道の駅は「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域の連携機能」、の3つの機能を持つ休憩施設である。

施設位置は、休憩施設としての利用のしやすさ、「道の駅」相互

図2、道の駅の機能
の機能分担の観点から設置されることとなっており、駐車場、トイレ、電話は24時間利用可能であることが求められる。

ここで、地域の連携機能とは、都市と農村の交流の促進を目的とされており、地場の農作物の販売につながっていると考えられる。

2 - 2 「道の駅」登録状況

「道の駅」は地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設で、平成18年8月10日現在で全国に845駅が登録されている。

3 ヒアリング

農業の活性は、それぞれの道の駅における理念によって影響を受けると考え以下のことについてヒアリングを行なった。

道の駅の整備目的・効果・課題

設置当初の考え方を知ること、それぞれの道の駅

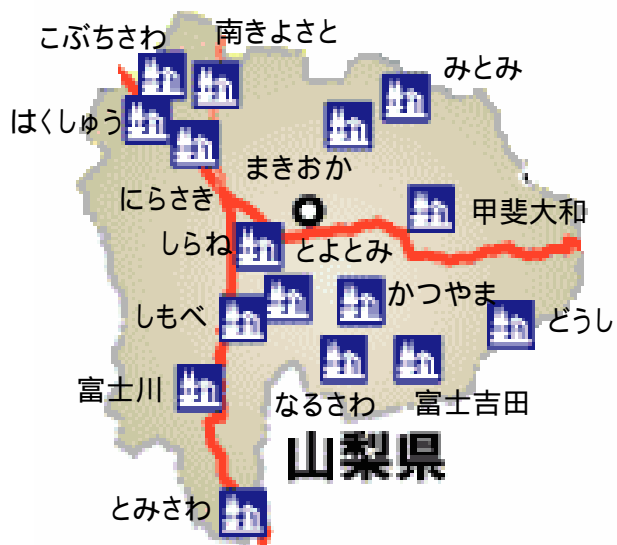


図1、山梨県の道の駅

にどのような特徴があるかを把握するため以下のことについて調査した。

町の概要、整備の目的、位置選定理由、
整備において留意した事項、整備の効果、
今後の課題

施設の概要と管理運営

基礎的な施設の体系の確認及び、管理運営がどのような行なわれているかを知るために以下の事について調査した。

施設位置、事業概要、運営管理、施設概要など
農作物の販売実態

農産物の出品の実態把握を行なうために以下の事について調査した。

出品条件、値段設定など

4 ヒアリングの分析

ヒアリングを行い、道の駅が地域とどのように関わっているのか、明らかになった事を紹介する。

道の駅の成功への要因

道の駅は建物の所有者は市町村のものであるが、管理運営しているのは、市町村、法人、指定管理者と多様化している。このような管理運営者の違いに係わらず、道の駅の発展や農業の活性化には、管理する人が大変重要な成功要因のひとつとなっている。

活動が活発な道の駅には、当初の理念を持っている人の存在があり、地域における道の駅の役割を理解し、地域の住民に伝えることで、協力を得ている。このような人や協力者してくれる地域の人により、目的がずれることなく努力、継続していく事が可能となり、魅力ある道の駅が形成されていく。

農作物の販売において

基本的に地域の農作物を売ることが機能として求められる。そのため、それぞれの道の駅の周辺の農業形態により、年中農作物を作ることが可能か、不可能かにまず分かれる。年中作物を作ることが出来ない所では、加工品などでどのように特徴や魅力を出し販売していくかを考える必要があり、それぞれの道の駅における努力がなければ農業の活性化につなげることはできない。

また、地場産業というのは、農業のみではないので農業以外の地場特産の良さを伝えることも、道の駅の役割である考えられる。

農産物販売の実態

道の駅に出品するには、基本その道の駅がある市町村に住民票がある方であり、各々の組合員になっていれば可能である。

持ってきた野菜の値段は出品者の言い値によって設定される。しかし、過度に高値なもの、状態の悪いものは駅長や、農業担当者によって除かれる。また道の駅により、生産のアドバイスや研修会がおこなわれ、道の駅の農作物は一定以上の品質管理ができています。

農産物販売の地域への効果

道の駅という販売場所が整備されたことで、地域の農業従事者の意識向上には効果があったと思われる。家庭菜園の様な人々でも、今までよりも少し多く作り、道の駅に出荷することで小遣い稼ぎが可能となった。また、この様に道の駅に出荷しに来ることで、人と触れ合う機会が増たり、競争意識が芽生えてきている。

道の駅における農業体験

いくつかの道の駅においては、簡単な農業体験を行なうことが可能な施設や、仕組みが整備されていた。このことにより、道の駅を通しての直接農家の人と交流し農業を体験する事ができる。

道の駅に登録することへの利点

道の駅へ登録を行なうことで、道路へ標識が設置され、カーナビにも表示される。また、道の駅というブランド力により、安心して施設を利用できる。

このような利点により、既存施設を道の駅に変えた所では、集客の増加が一様にみられた。

5 おわりに

今回の調査により、整備概要、施設概要、農業の底上げ、人と人とのふれあい、出品状況、価格設定を把握し、道の駅における農作物の販売及び、道の駅周辺の農業の活性化の実態を明らかにすることが出来た。しかし、今回の調査では、農業従事者へのヒアリング調査を行なうことが出来なかったので、今後これらの事について調査することが必要である。